

一 般 質 問 通 告 書

上記の件について、下記のとおり質問したいので、会議規則第62条第2項の規定により通告します。

2019年5月31日
東村山市議会議長 あて

議席番号 23番
質問者 山田 たか子

記

1. 中学校給食の在り方の見直しを求めて

現在、市内中学校の昼食は、持参する弁当かスクールランチ（注文弁当）か購入してくる弁当の選択制となっている。この選択制では家庭の経済状況が反映される。骨も心も、身体が大きく成長する大事な中学生のこの時期に、家庭状況に左右されず、どの子も丈夫な身体をつくる事は、将来の医療費を抑える点から見ても、行政として力を入れるべき点であると考えます。何よりも、食べることは生きることであり、その基本を子どもの時に身につけることは、大切ないのちを守ることにつながる。

現在の中学校給食の在り方の見直しを求め、以下伺う。

(1) 当市の学校給食に対する考え方について

- ①学校給食法第一条の目的を確認したい。
- ②①の法律には給食を適切に実施し、維持する為の「学校給食実施基準」があり、「給食はすべての児童生徒に対し実施されるもの」とある。当市の見解を伺う。
- ③当市が「選択制が良い」とする根拠を伺う。

(2) 中学校における食育との関連授業について

- ①各校の家庭科授業の調理実習時間数を伺う。
- ②生徒が持参する弁当について、指導または実態把握はどのようにされているのか。
- ③家庭科以外の授業で、具体的にどのような食育の授業が行われているのか。

(3) 中学校のスクールランチについて

- ①各校のスクールランチ登録者の割合を伺う。
- ②各校のスクールランチ登録者の喫食率を伺う。
- ③各校のスクールランチ喫食率を伺う。
- ④過去1年間、一月あたりの残食状況を伺う。

(4) 同じ義務教育期間である小学校の給食状況について

- ①アレルギーや感覚過敏、疾病等で個別的な相談指導が必要な児童数割合を伺う。
- ②個別的な相談指導が必要な児童への対応は、どのように行っているのか。

(4) 昼食時間について

- ①小学校および中学校の昼食時間と休み時間はそれぞれ何分か。
- ②昼食時間として十分な時間が確保できていると考えるか。
- ③昼食時間と残食の量の相関関係をどう捉えるか。

④昼食時間の延長は可能か。

(5) 市民の声の集め方について

小学校のような学校給食を求める声は多い。市民の要望・実態に即して検討する事が本来の行政の役割ではないか。今の「選択制が良い」が大半を占めるというスクールランチありきのアンケートではなく、市民の率直な意見を幅広く求められるアンケート内容の工夫を求めたい。市長の見解を伺う。

2. 学校通学路の危険個所対応への前向きな取組を求めて

昨年大阪府北部地震によるブロック塀事故を受け、当市では小・中学校 PTA 連合協議会の協力を得て市内の通学路の一斉調査が行われた。行政として市内全域を把握する取組であり、子ども達の命を守る為、今後に生かすべき調査であるとする。

この結果を受け今後の対応の取組について、以下伺う。

(1) 市内通学路の調査について

- ①この調査を行った目的を伺う。
- ②どのような調査結果となったのか。

(2) 今後の対応について

- ①これまでと同内容の補助制度の呼びかけにとどまるのか。
- ②ブロック塀の調査費用や解体、再建費用を補助する等、市民が自発的に行えるような前向きな取組を求めたい。それは「市民の命を守る」為に大切な税金の使い方ではないか。市長に見解を伺う。